

【1 事業の成果】

(1) フードバンク事業

◆実施内容

- ・生活自立支援法に基づく岩手県内の相談機関や役所、社会福祉協議会等 21 ヶ所(連携機関ではなく実際に食品を提供した機関等)に譲渡(出庫)した。その他、相談機関や支援機関 11 団体(学習支援・子ども食堂・被災者支援)、福祉施設等 7 施設、フードバンク団体 10 団体、計 49 ヶ所へ提供
- ・食品の取扱い量は大幅に増加し提供量(入庫)が 52557.78 kg(前年比 141.4%)、譲渡(出庫)が 40114.02 kg(107.4%)とどちらも前年より多い取扱い量となった。

(2) 社会参加事業

- ・社会参加推進事業については、子ども支援プロジェクトの梱包作業等をきっかけに学校以外で個人での参加をする学生が増え将来の担い手を増やす事ができた。一般ボランティアは長期にわたり定期的に参加する人数が増えた。また、フードバンク岩手のボランティア経験を基に他のボランティア活動参加の契機となった。
- ・一般、学生ボランティア参加人数 述べ 906 人(実人数 326/内学生数 140 人)
- ・寄贈、提供は以下の表のとおり

提供いただきました。(入庫)			譲渡いたしました。(出庫)				
	件数	重量(kg)	施設等	世帯数	人数	重量(kg)	
2021 年 4 月	119	2896.63	2021 年 4 月	107	203	585	3076.46
5 月	80	2203.56	5 月	103	85	159	1100.92
6 月	107	2714.13	6 月	111	203	557	3454.70
7 月	136	3033.03	7 月	116	108	201	1250.21
8 月	109	2278.08	8 月	85	638(462)	2118(1607)	9644.90(6850.06)
9 月	119	8586.59	9 月	106	171(79)	465(295)	2195.22(829.95)
10 月	121	4506.34	10 月	98	217	609	2632.38
11 月	122	3551.03	11 月	93	81	156	1164.84
12 月	165	6817.96	12 月	108	672(462)	2191(1605)	7074.11(4603.67)
2022 年 1 月	104	3326.35	2022 年 1 月	95	156(72)	404(250)	2766.86(645.88)
2 月	93	5419.06	2 月	96	184	497	3012.93
3 月	110	7225.02	3 月	95	77	153	2740.49
年度合計	1385	52557.78	年度合計	1213	2795 (1075)	8095 (3757)	40114.02

(※上記カッコ内の数字はフードバンク子ども応援プロジェクトでの提供数)

◆成果

- ・食品提供企業の増加、常設フードバンクポスト設置箇所の増加 9 ヶ所、合計 57 ヶ所となった。また広報や周知の徹底により・食品の取扱い量は大幅に増加し提供量(入庫)が 52557.78 kg(前年比 141.4%)、譲渡(出庫)が 40114.02 kg(107.4%)とどちらも前年より多い取扱い量となった。

(※2021 年 12 月時点で食品保有量が著しく低下していたため年度全体としての食品譲渡(出庫)も低下した)

◆課題

- ・コロナ禍により食料支援要請件数が増加しており食品取扱い量も増加している、食品を一時的にストックする場所の確保が今後の重要な課題となっている。

- ・コロナ禍でのボランティア募集や作業人数が重ならないようにする工夫が今後より一層必要である（参加人数は過去最多となっている）
- ・寄付金は単発の寄付者が多く継続的な寄付者は昨年と同様となっている。今後助成金の申請先が減少することも考えられるため継続的な寄付につなげる事が重要。

(3) 困窮者支援事業(食のセーフティネット事業)

- ・生活自立支援法に基づく岩手県内の相談機関や役所、社会福祉協議会等 21 ヶ所(連携機関ではなく実際に食品を提供した機関等)に譲渡(出庫)した。その他、相談機関や支援機関 11 団体(学習支援・子ども食堂・被災者支援)計 32 ヶ所へ提供
- ・フードバンク岩手への直接相談は 47 件(前年 30 件)(来所 3 件、電話 30 件、メール等 14 件)、関係機関へつないだ。
- ・生活困窮者支援団体等への緊急支援食料譲渡量は 11079.43 kg(1 世帯あたり 11.0 kg)

(4) フードバンク子ども応援プロジェクト

◆実施内容

・夏、冬休み中の子どもの健康面や精神面における不安を解消すると同時に悩みごとを抱えながらも、支援が行き届いていない小中学生のいる世帯が抱えている課題や悩みを早期発見し、ケースによってはアウトリーチも行い相談機関等の社会福祉資源に早期につなぎ、生活が困窮しきる前に解決を図り重篤化を防ぐことを目的とした事業を行った。

・定期便事業の開始、定期的に食品を送付する事により行政や社会福祉協議会等と連携し対象世帯を見守る事業を 10 月より開始した。

・緊急フードドライブなどで集まった食料品の検品や梱包作業には、市民ボランティアや学生ボランティアの参加で行った。若者が将来の担い手として、子どもの貧困問題や身近な地域課題の理解を深める為に作業前にこどもの貧困についての説明会を行った。(学生 140 名)

◆成果

・1075 世帯 3757 人へ長期休み期間中に食品の詰合わせを発送、送付した食品重量合計 12929.56 kg(1 世帯あたり 12.02 kg)

・多くの世帯へ社会福祉資源の案内チラシを食品と共に同封し相談先を知ってもらい、早期の相談につながった。また、行政担当課や社会福祉協議会以外にも多機関との協働や連係を行うことができた。

・参加校の増加、18 校が本プロジェクトのモデル校となった。(前年度 13 校)

◆課題

・期間中に食品を効率よく集める事ができず 1 世帯あたりの食品提供量が減少してしまった。(前年 14.85 kg)

・実施回数が増すごとに各市町の申込世帯数は増えており、支援機関につながるケースも増加してきたが、短期間に食品を集める方法やルート確保が必要。

・送料の確保・学校説明の回数の増加に伴う時間の確保・申請件数の増加に伴う事務処理対応・食品提供譲渡量の増加に伴う作業工程やボランティアコーディネート能力向上などが今後のプロジェクトを充実させ、拡大し継続させるために必要である。

(5) 東北 6 県のフードバンクネットワークの構築事業(東北フードバンク連携センター)

◆実施内容

・仙台市内に「東北フードバンク連携センター」を設置し仙台市内の企業開拓及び各地のフードバンク団体へ食品のマッチングを実施(成果 30555.61 kg)

・東北 6 県のフードバンク団体のネットワーク構築と組織基盤強化に向けたヒアリング及びノウハウの提供を実施。(青森 1、秋田 2、宮城 4、福島 3、山形 1)

◆成果

・一般社団法人の法人格を取得(2021 年 12 月)2021 年度の食品取扱い量は 30555.61 kg となり、東北各地のフ

ードバンク団体へ食品を分する事ができた。

(6)その他（アドボカシー）

- ・厚生労働省社会援護局へフードバンク岩手の行政や社会福祉協議会等との連携による食料支援実施方法、「フードバンク子ども応援プロジェクト」の説明及び提案を実施。
- ・消費者庁へ賞味期限切れの食品の取扱いについての要望提出及び意見交換の実施。
- ・農林水産省へのフードバンク団体への組織基盤強化に関わる要望及び意見交換の実施。

(7)メディア掲載等

- ・テレビ 4 回 ・新聞 15 回 ・その他 4 回

【2 事業実施に関する事項】

(1) 特定非営利活動に関わる事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者 人数	受益対象者 の範囲及び 人数	事業費 の金額 (千円)
フードバンク事業	・市民や生産者に食品の提供をお願いし、生活困窮者自立支援相談事業所などに無償で提供する事業。 ・東北 6 県でフードバンクのネットワークを構築する事業(東北フードバンク連携センター)	常時	盛岡広域 岩手県内 東北 6 県	6 名	・岩手県内の生活困窮者自立相談事業所、施設等 32 団体。 個人支援延べ 1720 世帯(内緊急支援 1007 世帯) ・東北のフードバンク活動 11 団体	9,661
困窮者支援事業	子どもを持つ世帯の困りごとを早期発見し支援機関との連携で解決する事業	随時	盛岡市など県内	5 名	子ども世帯 1075 世帯	11,223
社会参加推進事業	寄付された食品の仕分けや、フードドライブなどをきっかけに困窮者支援に市民の参加を促進する事業	週 4 回 程度	当事務所 岩手県内	5 名	協力団体・企業・ 学校等 188 団体	49
就労継続、就労移行支援事業	実施なし					0
その他の付帯する事業	実施なし					0

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者 の人数	受益対象者 の範囲及び 人数	事業費の 金額 (千円)
実施なし						0